

## 令和2年度 採材現地検討会を開催しました

令和2年7月21日、和賀郡西和賀町内の長橋国有林において、森林整備事業等で搬出される木材の有効活用や林業生産性の向上、生産素材（丸太）の品質確保に向け、採材方法を見直すことを目的として、岩手南部森林管理署及び遠野支署合同の「採材現地検討会」を開催しました。

請負事業者や検知事業者、地元製材業者、自治体関係者等94名の参加の中、熱中症対策に加え、今回は、受付での消毒やマスク着用等の新型コロナウイルス感染症対策もとりながらの検討会となりました。

岩手南部署及び遠野支署の事業説明、県内の木材市況等に関する情報提供に続き、今回は、土場に積まれた丸太を写真撮影するだけで、本数や材積を計測できるアプリ「A I丸太検知くん」の実演をし、実際に参加者にも体験して頂きました。

その後、事業者や自治体、森林管理署・支署の若手職員ら5組が、事前に準備したスギ、カラマツ、トチノキ、サワグルミについて、それぞれ直径や長さ、曲がり具合、用途等を確認しながら、最良と思われる採材（丸太にするため切る箇所）について検討し、それぞれ採材箇所を判断したポイントも踏まえながら結果を発表しました。特に、曲がりや腐れのある試験木については、採材方法について各班で判断が分かれる結果となりました。

また、実際に林業現場で作業を行っているオペレーターからも、採材についての考え方や注意点等について説明をして頂きました。

これらの検討結果を踏まえて、東北森林管理局青森事務所からは、生産コストの削減と販売単価を上げることを意識した採材を行うこと、岩手県森林組合連合会からは、貴重な広葉樹資源を有効活用するため、季節・市況動向等を意識して採材を行うよう指導がありました。

最後に、採材方法について各班の意見が分かれたスギについて、実際にハーベスターによる試験採材を行い、欠点の状態を確認した上で、改めて最適な採材方法について全体で検討しました。

本検討会により、生産コストの削減や有利採材の重要性、課題について、地域の林業・木材関係者で認識を共有することが出来ましたので、今後の事業に活かしたいと思います。



岩手南部森林管理署長による開会挨拶



「A I丸太検知くん」の体験



採材検討の様子



曲がりを確認しながら長級を検討



広葉樹の採材検討



広葉樹採材のポイント説明



試験採材



講評